

ハス (コイ科)



学名 : *Opsariichthys uncirostris uncirostris*

別名 : ケタバス

大きさ : 全長 30 cm

特徴 : 上顎と下顎が「への字」状に噛み合うのが大きな特徴。呑えた魚を逃がさないための形といわれ、日本産コイ科魚類で唯一の魚食性魚類。体型は細長く側扁する。体色は背面が青味がかかった黒色～褐色で体側は全体的に銀色が強い。オスのみ発現する婚姻色と尻鰭の伸長はオイカワのオスに似る。

国内の分布 : 本来は琵琶湖水系と福井県三方湖のみに分布していたが、全国的に行われた琵琶湖産アユの種苗放流に伴い分布域は全国的に広がった。大河川や湖沼で定着している。

県内の分布 : 利根川水系、霞ヶ浦水系に普通。那珂川水系では湖沼で確認されている。久慈川では未確認。

県内での生態 : 琵琶湖では初夏に湖岸や流入河川の砂礫底で産卵するとされているが、本県の霞ヶ浦でも湖岸域で仔稚魚が採集されることから同様と思われる。仔稚魚は動



写真: 体長約 4 cm の個体の頭部。成魚と異なり、「への字」状の口の噛み合わせがまだ浅い。

物プランクトンを主に食べるが、成長にともなって魚食性が強くなる。

備考 : 湖沼には、1980 年までに行われた調査で確認されていないことから、それ以降に生息するようになったと考えられる。環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。

主な文献 :

加瀬林成夫 (1966) 霞ヶ浦北浦におけるハスおよびワタカの繁殖について. 茨城県霞ヶ浦北浦水産事務所調査研究報告, 8: 38-42.

中村 誠 (1989) 湖沼の魚類目録. 茨城内水試調査研究報告, 25: 74-78.